

議会だより

12月定例会 No.34
平成26年1月30日

発行 石川県志賀町議会

しあ

平成25年度一般会計補正予算

障害者自立支援給付を増額 ページ 2

電源交付金の今後の見通しは(一般質問) 6

県原子力防災訓練を視察 10

統合小学校に特別財政基金を充当したい 12

グループ紹介 志賀ロータリークラブ 16



字が上手になりますように(末吉区 左義長)

12月定例会は、12月3日から17日までの15日間の会期で開かれました。町長から提出された平成25年度補正予算、条例の改正など議案26件と人事案件3件の合計29件を審議し、それぞれ全員賛成で可決、同意、適任としました。



平成25年度一般会計補正予算 障害者自立支援給付に 4600万円を増額

平成25年度志賀町一般会計補正予算は、歳入では、個人住民税や固定資産税の増収見込みによる町税の増額、普通財産売却実績などによる財産収入の増額のほか、8月の豪雨による災害復旧に伴う県支出金や町債の増額計上が主なもので、歳出では、障害福祉サービスの受給者増加に伴う給付費の増額や使用済み小型家電リサイクル法の施行に伴う関係経費の計上、農地農業用施設災害復旧費では、荒屋地内で発生した広域農道崩壊箇所などの災害復旧費を増額するほか、行政情報整備推進基金や財政調整基金への積み立てなどが

主なもので、これにより、歳入歳出それぞれ2億4143万6千円を増額し、予算の総額は140億301万2千円となりました。

消費税率8%への対応

消費税法等、関係法令の一部改正に伴い、平成26年4月1日から、消費税及び地方消費税を合わせた税率が5%から8%に改定されることから、本町の公共施設及び行政サービス等の使用料、手数料等に消費税改定額を上乗せした金額に改正するものです。

その主なものは、アクアパークシ・オンのプールと温泉の利用料金、志賀クリニックの受診者からの申請に基づいて交付する診断書とその他文書の手数料、下水道等使用料、上水道等使用料と水道事業分担金、富来病院の病室等の使用料と診断書等の交付手数料、ケーブルテレビ加入分担金と利用料金などです。

平成25年度各会計補正後の総額

会計名	予算額
一般会計	140億 301万円
国民健康保険	28億 7292万円
後期高齢者医療	3億 1783万円
農業集落排水事業	3億 9270万円
公共下水道事業	9億 4115万円
地域し尿処理事業	2億 2770万円
介護保険	28億 157万円
ケーブルテレビ事業	4億 9189万円
水道事業	収益的収入 5億 9607万円
	収益的支出 5億 7987万円
	資本的収入 9742万円
	資本的支出 5億 5184万円

※ 1万円未満四捨五入

赤住浄化センターが老朽化したため、アムズ株式会社と1億1403万円で工事請負契約を締結し、改修工事を行います。また、現在改修中の代田地区汚水処理施設は、当初契約では、汚水処理施設の機械設備工事にお

汚水処理場の老朽化に対応



改修される赤住浄化センター

て、水槽防食工事に伴い処理水槽内の接触材を洗浄、再使用することにしていましたが、取り出して確認したところ、既設接触材の変形や破損が激しく、接触材を交換して施工する必要が生じたため、739万円を増額し、1億913万円に契約金額を変更することになりました。



米浜信号交差点から西山台ニュータウンまで町道になります

西山台幹線を町道に

広域農道として整備された羽咋市境から米浜信号交差点までを区間とする町道第740号西山台幹線について、同交差点から西山台ニュータウン案内版までの区間を町道に編入するにあたり、延長を5685mから6607mに変更します。

教育委員に 新古紀子氏を同意

教育委員会委員の任期満了に伴い、鹿頭の新古紀子氏を任命することに同意しました。



新古 紀子氏

【新古氏の主な経歴】

平成13年 熊野小学校教頭
18年 富来小学校教頭
24年 教職退職
25年 志賀町民生委員・児童委員

人権擁護委員に2氏を適任と答申

任期満了となる大島の三津幸子氏と富来領家町の村上栄子氏を人権擁護委員に再推薦するにあたり、いずれも適任として答申しました。



三津 幸子氏



村上 栄子氏

委員長	久木 拓栄
副委員長	寺井 強
委員	須磨 隆正
//	越後 敏明
//	櫻井 俊一
//	戸坂忠寸計

電気自動車の充電スタンドの利用状況は



西山PAに設置された充電スタンド

質疑 シーサイドヴィラ渤海に設置してある電気自動車の充電スタンドの利用状況はどうか。また西山パーキングエリアに設置した充電スタンドの利用見込みはどうか。

答弁 渤海の充電スタンドは、設置した平成24年7月から今日現在まで66回の使用があった。このうち、25年度は32回で、能登空港からのレンタカーでの使用は11回となっている。一方、西山パーキングエリアのものは、10月23日に設置してから今日まで9回の利用があった。

質疑 今年度から北陸電力とNTTから行政財産使用料を徴収するということだが、ケーブルテレビの光ファイバー幹線は北陸電力やNTTの支柱を利用していると思う。支柱の移転は、町が負担しているのか。負担している場合は、使用料を徴収するのが遅かったのではないか。

答弁 移転工事について、県道は県の補償金で100%負担し、町道は町負担で行っている。北陸電力やNTTが支柱を移動する場合は、添架契約に基づき、ケーブル移設等を町で負担し工事を行っている。

県内では5年前から各自治体が調整し始め、他の市町よりスタートは若干遅れたが、志賀町では2年前から調整し今年から始めた。

教育民生常任委員会

委員長	田中 正文
副委員長	南 正紀
委員	稲岡健太郎
//	堂下 健一
//	下池外巳造

富来中学校体育館の町民開放状況は



議会で視察した体育館

質疑 現在の富来中学校に二つの体育館があるが、このうち一つは町民開放となっている。その啓蒙等をどのように行っていくのか。

答弁 太鼓練習で使用したことがあったが、近隣の方への音の問題があり、元々練習していた富来活性化センターに戻ったと聞いている。

他の要望があれば、学校の方へ申し出をしていただき、学校行事等と重ならない限り、全面的に受け入れを行いたい。

質疑 障害者自立支援給付金の4600万円の予算増額内容はどういうものなのか。

答弁 160名の方の給付を想定しており、3月までには10名ほど増える予想をしている。

その中身としては、居宅介護、重度訪問介護で5名おり、1250万円の増額となる。生活介護では2名で200万円ほど、施設入所では1名で150万円、就労移行では3名で270万円、就労支援継続では7名で1050万円、グループホームでは3名で282万円、短期入所200万円程度の増額となる。

これらは、いずれもルールに基づいたお金であり、国の補助制度に基づいて対応している。

町施設の鍵を

区長に預けては

委員 長 林 一夫
副委員長 福田 晃悦
委員 南 政夫
// 富澤 軒康
// 山本 辰榮

質疑

町の施設に設置された火災報知機が鳴ったことがあり、それを止めるため、住民が区長に伝えたが、鍵が富来支所にあるため、その対応に苦慮したと聞いている。火事の場合もあるので、施設の鍵は区長に預ければ便利で都合がよいのではないか。

答弁

ある地区で、町の施設の管理を区にお願いしていたところ、合鍵を作り誰もが勝手に使っていたことがあった。合鍵がどこにどれだけあるかわからないこともあり、鍵を変えなければならぬ事態が多数ある。仮に火災があれば、ガラスを割って入れればいい。利用者には少しは不便だが、鍵を任せることはあまり施設を管理する上で好ましくない。

質疑

消費税率改定に伴うアクアパークシ・オンの利用料について、他の自治体との比較、団体割引、周知方法はどうか教えてほしい。

答弁

各市町では、現行どおりのところと値上げをするところがあり、羽咋市のユーフォリアは市民を中心としたスポーツ施設との観点から、値上げはしないで現行のままいくとのことであり、七尾市のアスロンは検討中とのことである。

シ・オンは町外からの入館者も多い温浴施設であり、3%分を据え置くと、町の指定管理料に跳ね返ってくるので、値上げせざるを得ない。また、団体割引も結果的に値上げになる。

周知はケーブルテレビや町広報、施設内の張り紙等あらゆる媒体を使って利用者に周知をしていく。

副議長に

南 政夫 議員

須磨隆正副議長の辞職に伴う副議長の選挙で、指名推選により南政夫議員が第8代目の副議長に選出されました。



公務に就く南政夫副議長



林産業建設常任委員長

南議員の副議長就任により、林一夫議員が産業建設常任委員会委員長に互選されました。

3月定例会の日程

議会運営委員会で、来たる3月定例会の予定日程が決定しました。

本会議（初日）

3月4日（火） 10時

提案理由説明等

本会議（2日目）

3月11日（火） 10時

一般質問等

本会議（最終日）

3月20日（木） 14時

議案採決等

委員会審査は、3月12日18日まで

議会傍聴歓迎

申込は簡単、本会議の当日に役場二階にある議事事務局で受付していただければ傍聴できます。ただし、先着30名となっていますので、会議が始まるまでにお越し願います。

★お問い合わせ

議事事務局

☎ 32-9270

電源交付金の今後の見通しは

町財政への影響が懸念される 町長



福田 晃悦 議員



コミュニティバスの運行費にも交付金が充てられています

福田 原発立地自治体に交付される電源立地地域対策交付金について、平成26年度の交付額は24年度の前年度実績が基準となるが、志賀原発は23年3月から現在も停止中である。

同交付金は、安全上の理由で停止した場合「最大81%分の発電量実績があった」とみなして交付する「みなし規定」が暫定的に定められているが、26年度の見通しと今後の町財政への影響はどうか。

町長 経済産業省は来年度も「みなし規定」を適用する方針を明らかにしており、本町への平成26年度の交付金については、本年度と同額程度を見込む予定である。

しかし、27年度以降はまだ国の方針が定まっておらず、町財政への影響が懸念されることから、本年8月に全国原子力発電所所在市町村協議会で同交付金の期間の延長や嵩上げ、これまで原子力政策に協力してきた立地地域への支援を行うことを国に強く求めている。

ふるさと納税に磨きをかけよ なお一層のPRを

町長



ふるさと納税ホームページでは知恵比べが繰り広げられています 《(株)トラストバンク転載許諾》

福田 出身地や愛着のある地域への思いを税制上で後押しする「ふるさと納税」が創設5年を迎え、全国的に順調に伸びている。

『生まれ育った地域に貢献したい』という納税者の思いを引き出す工夫が必要であり、『地方の応援団』を育てる制度として、自治体はさらに磨きをかけるべきと考えるが町長の考えはどうか。

町長 本町でのふるさと納税の状況は、制度の発足以来、本年11月末までの累計は、県外の21件を含めて30件、寄付金の総額は322万5千円で、件数はまだまだ少ないと思っており、なお一層のPRをしていかなければいけないと考えている。

全国的には、ふるさと納税に際して、特典付きで募集している自治体もあるが、本町においては

その他の質問

福田 町駅伝大会において、近年コースの固定化が感じられる。より多くの町民に興味を持ってもらいたい観戦してもらうため、毎年コースを変化させるべきでないか。

町長 志賀・富来両地域で各校下を網羅した複数の里山・里海コースを設定して、多くの町民に関心を持って観戦してもらえるような工夫ができれば、体育協会をはじめ、関係団体と協議をしていきたい。

ふるさと納税制度の趣旨を尊重し、適切に良識をもった対応を心掛けていきたい。



寺井 強 議員

副町長8ヶ月の所感は

堅実な行財政運営と思う

副町長

寺井 副町長は、この8

ヶ月間、町長の補佐役としての業務はもとより、町祭の実行委員長を務めるなど、志賀町の行政に携わってきたうえで、これまでの本町の行政運営に対する所感と志賀町民に対する感想、そして今後、志賀町と県とのパイプ役としての役割、志賀町行政に対する考え方をお聞かせ願いたい。

副町長 「本町の行政運

営に対する感想」は、中長期的視点に立って、堅実な行財政運営が行われているのではないかと思っている。そして、意思決定にスピード感があると感じている。

「町民に対する感想」

は、地域コミュニティが一定程度保たれているが、少し気になっていることは、合併から8年になっても、地域間で若干のわだかまりを感じている。志賀町が活性化していくためには、一体感を醸成していく必要があると考える。

「本町と県とのパイプ役としての役割」は、町の行財政運営には、県とのパイプは大変重要であると認識しており、私自身、あらゆる場面でその役割を積極的に果たして

いきたいと考えている。

「町政を運営していく上での考え方」は、今後とも行財政改革を不断に実行しながら、財政の健全化を図りつつ、企業誘致等による若者の定住促進、北陸新幹線金沢開業などを見据えた観光誘客等交流人口の拡大、農林水産業の振興など、町の活性化に向けた施策を積極的に進めていく必要があると考えている。



議員の質問に丁寧に答える庄田副町長

白山市と相互交流を図れ

普段の交流が大切と確認 町長



志賀町と白山市の小学生によるスキー交流

寺井 金沢、加賀、隣県にも目を向けて交流人口の拡大を図るべきでないか。特に白山市とは災害時応援協定を結んでいることから、観光、文化、スポーツを含め、相互交流を行っていくべきではないか。

町長 人口の減少が続いている本町において、今後の町づくりと活性化を図っていくためには、交流人口を拡大していくことが、何よりも重要な課題である。

町の素材をPRしながら、「志賀町に行ってみよう」という仕掛けを作ることによって、他の地域との差別化を図っていく必要があると考えている。

のと里山海道や能越自動車道は、金沢、加賀方面、さらには富山方面からの入り込み客を増加させてくれる効果があるといえ、受け入れ体制を整え、情報をタイムリーに発信し、県外からの誘客も促進していきたい。

さらに、ゆるキャラの有効活用として、ゆるキャラが一堂に会する機会をつくり、ゆるキャラ同士の交流事業を行い、住民の交流にまで発展するようなことも、模索していきたいと考えている。

また、白山市との交流は、災害時だけではなく普段からの住民の交流事業を行うことによって、お互いの市、町を知り、良好な関係を築くための基盤づくりを進めていくことも、災害時等応援協定を締結する際に確認をしている。今後は、スポーツや文化団体などにも輪を広げるとともに、職員の親睦団体などでも交流していきたいと考えている。

防災組織の機能強化を

連携は進んでいる 町長



南 正紀 議員



参加団数が減少傾向にある操法大会

南 防災組織の充実は急務であり、町は分団の再編を計画していると聞きますが、各地区の自警団や自主防災組織との共存を考慮し、町内の防災組織の機能強化を求めます。

また、自警団、自主防災組織に対し、安全指導や活動に対する手厚い支援を求めます。

町長 消防団の再編は、行政改革の取り組み事項であり、団員が確保できる間は現状の編成とし、今後、地域の状況を勘案しながら検討する。

自警団と自主防災組織の再編、連携について、自警団は、火災や水害などの非常時に、自分たちの安全を守るために集落や職場などで組織をする団体である。一方、自主防災組織は、自警団を包括するもの。これらは既に連携が進んでいると考える。

自警団と自主防災組織に対する支援は自警団には、小型消防ポンプの更新時の助成、自主防災組織には、リーダーとなる防災士の資格取得にかかる費用を助成している。来年度には、自主防災組織の設立を促進し育成を図るため、防災資機材の無償貸与をさらに充実していく。

町主催の訓練はするのか 個別にできるか検討する 町長

南 先般行われた原子力防災訓練の効果も十分に分析する必要がある。一部の避難行動が計画通り実施できなかったことは誠に遺憾だった。原因を究明し、今後に生かすべきで、総括を聞く。

また、町が主催する訓練を実施する用意はあるのか。

ブルが発生することが考えられ、2重、3重の連絡体制を整え、訓練項目の確実な実行に努める。訓練の総括や課題は、マスコミ等にも公開する形で、県や参加機関の担当者が集まり、課題の抽出や対策を協議し検討する。

原子力防災訓練は、国や県・関連市町が一体となって取り組む必要があり、その中で、町が個別にできる項目がないか検討する。

その他の質問

南 町祭や地区の行事の事故対策、安全管理を問う。

町長 県原子力防災訓練では、住民避難のほか、通信連絡、環境放射線のモニタリング、オフサイトセンターの運営訓練等を実施した。さらに町として、保育園児や自主防災組織による避難、応援協定を締結している県内外の市町への応援要請、行政機能移転訓練等も実施した。

原子力災害に限らず災害発生時は、様々なトラ



今年の石川県原子力防災訓練

町長 実行委員会では、飲食店組合、露天商を含む全ての出店者に、調査票を事前に提出させ、内容を確認し現地指導等を行っている。イベント当日には現地を巡回し、火気類の確認と事故防止の指導を徹底している。地域における祭礼や盆踊り大会などの催しにおいても、現地にて確認と安全指導を行う。



堂下 健一 議員

堂下 学校が10時、11時と深夜まで灯がついているようだが、教員の健康管理の面からも、教育長は勤務実態を把握しているのか。



イメージ写真（学校を特定するものではありません）

教職員の勤務実態は 把握し指導している

教育長

教育長 日頃から校長を通じて、勤務実態の把握に努め、状況に応じて指導をしている。

小学校では、研究発表会、運動会等の学校行事等、中学校では、郡市・県の大会に向けた部活動など、やむを得ず遅くまで勤務することがあり、10、11月は特に行事が多く、10時を超えた日が数件あった。

平均的に、小学校では6時半前後、中学校ではクラブ活動の関係で、8時前後が退出時間と認識している。

10時等々が恒常によくということとは現状ではないと認識している。教職員の健康管理、勤務時間の管理も含めてきちんと管理していきたい。

原子力防災訓練の検証を

他地域と差別化を図る 町長

堂下 今回の原子力防災訓練は、過酷事故という事故想定に見合った訓練内容であったかという観点から、訓練の検証をすべきではなかったのか。

① 広報は、放送が共鳴して聞きづらいついか、荒天時には家の中で聞こえないということもあり得るが、検証をしたのか。

② 避難指示の前に集合場所に待機する参加者がいたが。

③ 避難バスの確保はできているのか。

町長 ①音量が小さくて聞こえないことが判明したが、車輛による広報には限界があるので、防災行政無線放送などを繰り返し返して情報伝達に努める。

なお、本町で5キロ圏内への避難指示が出された時には、全町避難のため、全町一円に即時避難の広報をする。

②事前に訓練日程等を知らせたために、早く参集した人もいたようだ。

③原子力災害時のバスの

手配は町独自では困難なため、民間バスの確保を県に要望している。また、国に対しても、災害時に速やかに避難者の大量輸送手段を確保できる体制の構築を要請している。

運転手に対する放射線教育は、自治体職員と一緒に受講させたいと考えている。

その他の質問

堂下 のと里山海道が開通して8ヶ月になるが、その効果の中間報告を求めらる。

町長 のと里山海道の交通量は、昨年と比較して約1.6倍となっている。本町への観光入り込み客数は、半年間で、昨年の57万人に対し今年58万人の微増である。

今後の対応は、本町の魅力を発信しながら、のと里山海道を利用する方々を町内へ誘導する方策を検討していく。

原子力防災訓練を視察



【訓練想定】平成25年11月16日午前7時30分、地震により志賀原子力発電所において、1号機原子炉が自動停止、外部電源が喪失、非常用ディーゼル発電機が機能を失い、全交流電源が喪失した。

今回の訓練は

11月16日、平成25年度石川県原子力防災訓練が住民約1000名、272の国、県、町などの関係機関、防災関係者約1200名の参加により行われました。

この訓練は、原子力災害対策特別措置法と石川県地域防災計画、関係市町の地域防災計画に基づき、原子力災害に関する防災体制の確立と防災業務関係者の防災技術の向上を図るとともに、住民等の防災意識の高揚に資

児童も真剣に

することを目的に実施されるもので、今回から志賀原子力発電所の30km圏内の住民が対象となりました。我々志賀町議会では、原発立地町の議会として、その訓練の一端を視察し、訓練のあり方や課題・問題点などについて考えました。

避難場所は、志賀地域が白山市の鶴来高校、富来地域が能都中学校となり、各所からバスや専用車等で移動し、途中で放射線の被ばく検査としてスクリーニングを受け、それぞれの指定避難場所に移動する計画です。

最初に、富来小学校における児童の避難を視察しました。

当校での避難計画は、午前8時20分に「原子力緊急事態宣言」が出された後に避難が開始される

計画でしたが、我々が同時刻前に小学校に到着した時には、すでに避難が開始され、児童たちは避難バスに乗りし、待機していました。

間もなく、バスはスクリーニング会場である能登空港に向けて出発し、我々も能登空港駐車場に移動し、児童や住民の検査の様子を見ました。

現地には放射線防護服に身を包んだ係員が配置され、緊迫したムードが漂う中、児童たちは訓練とはいえ緊張し、誰一人取り乱すことなく、真剣に参加していました。

その後、避難場所である能登町の能都中学校に到着し、一連の避難行動は終了しました。



30キロ圏8市町が参加

平成25年度 石川県



身体に放射能汚染がないか調べるスクリーニング



知事が視察

避難場所には、この訓練の主催者である谷本知事が小泉町長とともにヘリコプターで飛来し、訓練の総括を行いました。

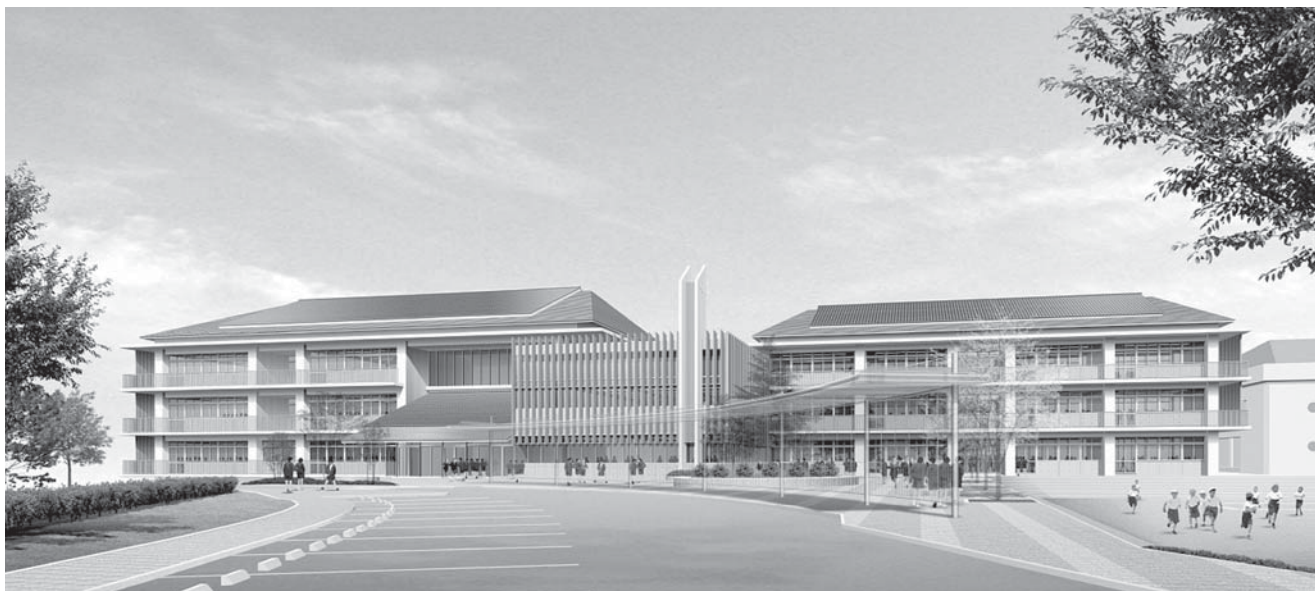
前年に輪島市を避難会場として行われた同訓練と比較すると、スクリーニングが避難会場でされたときに比べ、今回、避難の途中で行われたこと

は、避難会場での混乱防止や避難者の管理に有効なものだと感じました。しかし、その一方で、避難指示やその伝達に食い違いがあるなど、今後そういった反省点への改善が求められます。

住民や国、県、町などを対象とする大規模な訓練ですが、「備えあれば憂いなし」とおり、継続した訓練の開催が必要と感じました。

志賀町議会の視察日程

- 7:40 志賀町役場出発
- 8:05 富来地域住民避難状況
- 8:15 富来小学校児童避難状況
- 9:30 能登空港スクリーニング
- 10:30 能都中学校避難場所
- 13:00 志賀町役場帰庁



統合小学校のイメージ図

統合小学校に

特別財政基金を充当したい

町側 特別財政基金を志賀地域の統合小学校建設費に充当したい。この基金の用途については、合併協定の中で「志賀地域の振興」ということになっており、条件に合っていると思う。

小学校建設に要する費用は、概算で約37億5千万円となっているが、これから建設資材や人件費の高騰も見られるということで、数字は動くかもしれない。加えて、放課後児童クラブ建設で約2億円かかる見込みである。

それに対し、補助金は約4億円、地方交付税に算入される起債（借金）が約4億円で、わずか8億円しか有利な待遇がない。その他、小学校施設整備基金が1億8千万円

あるが、財源としては相対不足する。

そこで、現在32億円ある特別財政基金を充当したいということである。

また、高浜牧場の土地建物の購入と解体撤去費が2億5千万円ほどかかるので、これにもこの基金を充当できないかと思っている。

議員 町長は、志賀地域の振興と言うが、学校建設のような教育的なことは町民又は国民全体の問題である。果たして適当なのか、タウンミーティング等で町民に投げかけてみてはどうか。

町側 借金より、基金を使った方が行財政改革から理にかなっている。

議員 この基金は、合併協議のときに志賀地域の振興のために使うことが決まっている。全額使うかは別として、統合小学校建設に使うべきだと思う。国の補助金の割合が低いですが、もう少し早い段階でこの点を協議すべきであった。

議長 皆さんの意見をとりまとめると、議会としては、統合小学校の建設に特別財政基金を使うことを了解するものとする。

「特別財政基金」とは…

平成16年9月13日に旧志賀町と旧富来町で調印した合併協定の中に、「原子力発電所立地に伴う地域振興」として、「旧志賀地域の振興を図るため、新町において旧志賀地域の振興事業費に充当するための基金を積み立てる。積み立てる額は41億円とする。」と合意されたことにより、9億円を「地区自治振興基金」、32億円を「特別財政基金」として積み立てた町の預金のことです。

合併協定には、「地域振興に係る事業は、旧志賀地域における各種中長期計画に掲載されている事業を優先的に実施する。」と記載されていることから、この使い道について協議がなされました。

とき実験農場を(株)スギヨファームに指定管理の予定

【町側の説明】

とき実験農場は、現在、志賀町が100%出資する(株)志賀町振興サービズに指定管理者として、リンゴやジャガイモなどのオーナー制や作物の販売を手掛けているが、収益が伸び悩んでいたことから、行財政改革で指定管理者の再選定が検討されていました。

そこで、このたび、ちくわやカニかまぼこで有名な七尾市のスギヨの農業部門を担当する(株)スギヨファームと合意が整い、平成26年4月から5年間、指定管理により施設を運営する予定となりました。

この企業は、リンゴやブドウ等の栽培から加工販売までを行う、いわゆる「6次化」や薬膳料理の素材栽培を計画するなど、実験農場の設置目的に合致しています。

また、雇用や収益性も確保され、町からの指定管理料は不要で、町と企業がお互いにメリットを享受できることとなります。

質疑

ぶどう園を含めたすべての部分を、スギヨファームへ頼むということか。また、ここは借地になっているが。

答弁

ぶどう園は中浜地区内にあるが、それも含まれてすべてである。また、現在は中浜区と町で借地契約しているが、今後はスギヨファームと中浜区で契約してほしいと考えている。

質疑

りんご園のオーナー制度は引き続き行うのか。また、畑で栽培する品目については、指定管理者に任せるのか。

答弁

りんご園は、オーナー制にするのか会員制にするのかスギヨファームの方で検討している。畑については、露地野菜の生産や薬膳料理の素材の試験栽培などを計画している。

質疑

実験農場で働いている職員はどうなるか。

答弁

現行の職員を優先して採用したいと聞いている。

質疑

指定管理料が無料というが、建物の管理はどうなるのか。

答弁

建物の管理も含めて、スギヨファームに任せる。

質疑

スギヨファームがどのような形で管理運営を行うかだが、具体的には何名くらい雇用するのか。

答弁

当初は、施設管理責任者1名、事務補助販売員1名、日々雇用職員を男5名、女8名の計15名を計画している。

質疑

将来的に施設を売却することを視野に入れているのか。

答弁

補助金の関係で現在は売却できないが、その時期が来たら売却したいと思っている。



とき実験農場

産業建設常任委員会では、11月5日から7日までの日程で、「九州新幹線鹿児島ルート全線開通に伴う誘客促進を図るための取り組み」について視察を行いましたので、報告します。

産業建設常任委員会 視察報告

「おもてなし」の
心で観光客を誘致
指宿市



観光特急列車「指宿たまたま箱」

11月5日、鹿児島県指宿市を訪問しました。

指宿市は、世界に類を見ない「天然砂むし温泉」をはじめ、豊富に湧出する温泉に恵まれた、言わずと知れた温泉地であるところなのです。

まず、指宿市へ向かう途中で目にしたのが、JR指宿枕崎線の観光特急列車「指宿たまたま箱」でした。

車両は、クリーム色だった白、反対側が黒塗の斬新なデザインで、座席の多くが海側に向けて配置され、桜島や錦江湾の景色が楽しめます。

この列車は、登場と同時に人気列車となり、乗客はこの2年間で30万人を突破し、乗車率は80%を誇っています。

指宿市では、市や観光協会をはじめ、市民ボランティア、地元高校生、住民有志の方々などが、「指宿に来てよかった」、あるいは「また指宿にぜひやって来たい」という気持ちを持っていただくため、駅前で観光の旗振りや手振りを積極的に行っています。

当初は、指宿市の美しい景観や優れた観光施設などに視点を置いていましたが、おもてなしの心を大切に市民が一体となった地域づくり、また近隣市町も含めた広域的な取り組みが、何よりも指宿市の成功の秘訣であると感じました。



「指宿市の主な取り組み」

- ・定期観光バス、ジャンボタクシー等による観光地への誘導
- ・市内各地におけるまち歩きガイド会の立ち上げ及び体験型観光の予約・紹介

交通アクセスの向上と宿泊客の増加
伊佐市

翌6日には、鹿児島県伊佐市を訪問しました。

伊佐市は、鹿児島・宮崎・熊本の県境にある人口約2万8千人の市です。伊佐市内へのアクセスは、九州新幹線の停車駅である新水俣駅からは、車で50分、鹿児島空港からは車で50分となっております。



志賀町と条件が近いというところで、我々が注目したのは、「レンタカー

を借りて伊佐市の指定宿泊施設に宿泊をした方」に対して、助成金を交付するという取り組みでした。しかし、利用状況としては芳しくないようであり、理由としては、鹿児島県の中心地である鹿児島市内に宿泊客が集中してしまうことでした。我々においても、金沢市内への集中化が危惧されているところなのです。

視察を終えて

今回の視察を通して、おもてなしの心、郷土の自然、歴史、文化を活かした地域づくりが大切であると感じました。

指宿市、伊佐市ともに、おもてなしの心により我々を受け入れてくださり、その心温まる光景は今でも心に残っています。

今回、「あの質問のゆくえ」として、一般質問の提言などが町政にどのように反映されているのかお知らせします。

質問

町内バスの効率的な運行を

平成 24 年 12 月定例会

生活路線バスをコミュニティバスで補ったり、時間に合ったコミュニティバスの運行ができれば利用率も上がり、町の負担が軽減できるが。

町長答弁

見直し案の検討をしている

コミュニティバスの運行は、見直し作業をしており、児童生徒の利用を含めた利用しやすいダイヤの設定や民間バスとの共存共栄を図り、安全・安心な公共交通の提供に努めていく。

どうなった

見直しを行いました

皆様のご意見を参考に見直しを行いました。

- ①運休日の変更 1月1日～3日の3日間とする
- ②利用率の低い便を廃止
- ③日曜日の運行を半減する（志賀地区市街地循環線以外）
- ④ワンボックス型車両（幅2.1m以下13人乗り）の導入
- ⑤中学生以下を無料とする

質問

都市圏シニアを誘致できないか

平成 25 年 3 月定例会

都市圏のシニア世代を中心に、第二の人生を志賀町で過ごしてもらうよう情報発信を強力に行い誘致を図ってはどうか。

町長答弁

対策を検討していきたい

都市圏では自然環境に恵まれた地方での生活を求める方が増えているが、本町では受入体制が整っていないので、今後対策を検討していきたい。

どうなった

若者定住事業に取り込んで

若者の定住促進が最優先との考えから、本年度から高浜地区において、定住促進事業に着手しました。

今後は、若者層に重心を置きながら、シニア世代も含めた定住に関する取組みも検討していきたいと考えています。

志賀ロータリークラブ

世界的団体として、社会奉仕や国際親善等を目的に活発な活動を行っている志賀ロータリークラブにお伺いし、お話を聞きました。

社会貢献と自己研鑽の場として

議会だより

しか

12月定例会

No.34
平成26年1月30日



会長 酒谷 正人さん

◆発足の経緯は。

◇昭和40年代前半、志賀町にもロータリークラブを設立しようという機運が有志の間で盛り上がり、昭和46年6月に国際ロータリーの承認を受け正式に発足しました。

◆メンバー構成は。

◇地域内に事業所又は住居がある適格者が職業分類制度に則って、業務ごとで編成されています。
企業代表、団体代表、個人事業主、専門職務従事者など様々です。

◆普段はどのような活動をしていますか。

◇毎週火曜日の通常例会をはじめ、職業奉仕プロジェクト、社会奉仕プロジェクト、新地域奉仕プロジェクトを実施してい



保育園へのサンタ訪問

◆これまでの活動など。

◇安部屋海岸の清掃及び弁天島の草刈り、親子さつまいも体験農場、ホテル観察会、保育園クリスマスサンタ訪問、志賀高校でのマナー講座及び人間啓発講演会など。

◆目標は。

◇私当面の重点活動目標は、志賀高校支援事業の継続と充実です。
会員の会費のみで運営しているロータリークラブにできることは多くありませんが、生徒たちの自己啓発を少しでもお手伝いできればと考えています。



親子さつまいも体験農場



志賀高校での自己啓発講演会

◆最後に一言。

◇ロータリークラブの活動は、自分たちの力の及ぶ範囲内での社会貢献であると同時に、「自己研鑽」の場であるともいえます。世界的ネットワークを通じて、仕事で触れる世界とは全く異なる世界を知ることができる。それがロータリーです。



議会広報特別委員会

発行責任者	議長	委員	副委員長
富澤 軒康	福田 晃悦	南 正紀	稲岡健太郎
		寺井 隆	下池外 巳造
		須磨 隆正	

発行 / 志賀町議会 編集 / 議会広報特別委員会
〒925-0198 石川県羽咋郡志賀町末吉十五番地1
TEL (0767) 32-1111 FAX (0767) 32-3933